

ダイコンの春まき栽培におけるべたがけ資材を利用した促進技術

馬場高行・*田畑耕作・相星勝美 (鹿児島県農業試験場大隅支場・*鹿児島県農業試験場)

Takayuki BABA, Kousaku TABATA and Katsumi AIHOSI : Forcing Techniques of Radish in Spring by Covering with Non-woven Fabrics

鹿児島県のダイコン栽培では、冬季温暖性を利用した作型として、冬まきビニルトンネルマルチ等の作型が普及している。今回、安価で使いやすい「べたがけ資材」を利用した栽培法について検討したので、概要を報告する。

1. 材料及び方法

品種は青首の極晩抽性「天翠」を用いた。栽植様式は畦幅150cm, 株間20cm, 条間50cmの2条(666本/a)とした。また、透明ポリフィルム(0.02mm)を畦面100cmにマルチした。

試験1: べたがけ資材の種類

長繊維、割繊維不織布の7種類の資材を、播種直後から畦面上50cmの高さにトンネル被覆し検討した(1989年)。

試験2: べたがけ被覆期間

被覆期間は52日, 63日, 70日までとした(1990年)。

試験3: べたがけ資材の被覆方法

①トンネルがけ(支柱を用いる)

②べたがけずらし(じかがけで、余裕を持たせず被覆し、ダイコンの生育に応じて資材をずらし)

③べたがけずらしなし(じかがけで、被覆当初から余裕を持たせて被覆し、ずらしをしない)

2. 結果及び考察

試験1

被覆下の最高気温は各資材とも無被覆に比べ2.9~13.2℃高く、資材別では、サンリッチ>スカイテック>マリエース>パスライト>日石ワリフ≧パオパオ90>タフベルNの順であった。生育収量からパスライト、次いでパオパオ90、スカイテックが優れ、これら資材の被覆により、無被覆に比べ収穫期を7日間程度促進できると考えられる。

試験2

地上部の生育は、被覆期間が長くなるほど旺盛になるが、根の肥大、青首の着色は、短いほど優れた。よって、被覆期間は、播種直後~晩霜の恐れのない4月上旬(平均気温14℃以上)までが適当と考えられる。

試験3

いずれの方法も生育、収量共に優れたが、資材費の安さ、換気労力、生育促進効果の高さから、「べたがけずらしなし」の実用性が高いと考えられる。

第1表 資材と収穫時の生育 (単位: %, cm, g)

資材名	透光率	価格 円/㎡	葉長	葉重	根長	葉付 根重	霜害
パスライト	85	31	49.0	392	42.2	1,223	微
パオパオ90	91	31	47.3	368	42.4	1,128	微
マリエースE4015	67	31	49.4	364	39.1	1,012	微
スカイテック	80	31	49.6	387	40.4	1,197	微
日石ワリフ	91	70	48.5	381	39.3	1,044	微
タフベル3800N	92	120	47.3	316	41.0	1,059	少
サンリッチ	83	150	49.3	360	42.9	1,207	少
無被覆	100	-	44.5	340	39.8	898	中

注) a) トンネルがけ b) 播種期: 2月27日, 収穫期: 5月3日

第2表 被覆期間別生育 (単位: 日, cm, g)

除去時期 (期間)	除去後 の日数	葉長	葉重	根長	葉付 根重	青首 色
4/2(52)	24	39.4	292	40.4	1,045	緑
4/13(63)	13	42.1	332	40.9	1,043	緑
4/20(70)	6	41.3	372	38.7	910	淡緑

注) a) パスライトのトンネルがけ

b) 播種期: 2月9日, 収穫期: 4月26日

第3表 収穫時の生育及び品質 (単位: cm, 枚, g)

被覆方法	葉長	葉重	根長	葉付 根重	青首 色	害虫の 食葉
無被覆	48.1	313	45.4	1,340	濃緑	中
トンネル	48.2	357	48.3	1,650	緑	微
べたがけ1	48.0	319	46.8	1,477	やや淡緑	微
べたがけ2	48.1	333	48.7	1,607	やや淡緑	微

注) 播種期: 2月8日, 収穫期: 5月2日